

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

総括

■まとめ

離島では交流団体の誘致受入について、大半が前向きな意見であったが、中には、島の宿泊施設や交通機関のキャパが少なく、団体の受入体制が整っていない問題なども挙げられている。

一方、団体の離島訪問意向としては、全団体が前向きな姿勢であった。

団体では、研修や福利厚生、ビジネス、ゼミでの課題、研究活動、地元の人との交流などで、離島を活用することに、興味があり、県の支援事業の元、参加したいという意見であった。

ただし、受入側の離島としては、団体を受け入れる際のメリットよりも、受入体制など課題が多く挙げられていた。

団体側でも同様に、離島を活用する際のクリアすべき課題として受入体制などが挙げられ、概ね一致している。

団体では、ボランティアに積極的な意見が多くあがっている為、離島が抱えている課題を団体のボランティアなどをうまく活用し、連携することで、早期解決に繋がることも期待される。

今回の事業を通しての離島訪問意向が強く出ており、受入側の課題が解決することで、更なる離島交流の発展に繋がるものと結果から推測される。

■離島への団体訪問について

各離島ごとでの団体受入実績は、16市町村中、6市町村と37.5%が団体の受け入れ実績があった。一方、団体の過去の離島訪問宿泊経験がある団体は、10団体中、8団体で80%という結果となった。

■ボランティアツーリズム事業について

離島および、団体ともどちらも前向きな声が多かった。ただし、受入側の小規模離島などは、受入体制の問題が挙げられた。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

1. 18市町村対象離島へのヒアリング

① 過去に交流団体受入の実績があるか

■ 交流団体受入の実績に関するまとめ

各離島ごとに過去実績のヒアリングを実施。離島体験交流促進事業での受け入れが6件あった。多くの離島ではスポーツ大会関連の実施や、大学のゼミ・サークルなどの回答が多い。

中には、本土の小学生と相互交流をしている所や、企業の研修や勉強会という回答もあった。

交流団体受入の実績

- 粟国村： 離島体験交流促進事業、大学（サークル）、企業クラブの研修・勉強会、本土から野鳥の会、
- 伊江村： スポーツ大会、修学旅行、滋賀県の小学生と相互交流あり。企業の社員旅行、震災の子供たちを民泊で受け入れあり
- 伊是名： 離島体験交流促進事業、スポーツ大会、大学ゼミ、高校クラブ合宿
- 伊平屋村： 離島体験交流促進事業、スポーツ協会、学生の受け入れ、サイクリング、鳥取県の小学生と相互交流あり、企業（稲刈り体験）
- 南城市： 自治会、大学の講座、首里城ガイド友の会、ヨガ団体
- 本部町： 離島体験交流促進事業（小学生のみ）
- 竹富町： 修学旅行
- うるま市・北大東村： 離島体験交流促進事業、
- 久米島： 少年野球チーム、大学野球チーム、駅伝実業団、企業研修
- 南大東村： 北大東村と相互交流、：離島体験交流促進事業、町村会視察研修
- 宮古島： 野球チーム（プロ・大学・社会人）などスポーツチーム、大学ゼミ、行政
- 石垣市： 学生サークル、プロスポーツ、大学
- 多良間： 行政関係の視察研修
- 渡嘉敷村： 修学旅行、プロスポーツチーム、日本PTA
- 与那国： NTT講習会

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

1. 18市町村対象離島へのヒアリング

② 交流団体の誘致受入の意向

■ 交流団体の誘致受入の意向に関するまとめ

各離島では前向きな意見が大半だった、意向はあるものの、受け入れ態勢の問題等が明確になっている声も聞くことが出来た。その中で最も多いのが、宿泊施設、交通の問題。次いで大型施設の有無。否定的な意見では、島の身の丈にあった島民自らが対応できる観光をすべきだと考える。本部町では協議会があり許認可制になっている。

交流団体の誘致受入の意向

- 粟国村： 交流団体の受入を通し、継続的な付き合いをしていきたい。
- 伊是名： 積極的に行っていきたい。
- 伊平屋村： 受入経験もあり、今後も可能な限り受け入れていきたい。
- 南城市： ルールを守る、事前確認して来て頂けるのであれば受入していきたい。
- 本部町： 団体受入のノウハウがないので、サポートが必要。
- うるま市： 大きな施設がないので、団体の受入は難しい。
- 久米島： 今後野球チームや実業団駅伝チームの誘致を行う予定。
MICEとしての企業受け入れは、県内企業も含めて受入を予定
- 北大東村： 団体受入の意向はある。
- 南大東村： 団体を意識した受入計画はない。現在は個人客を中心に受入を実施
- 宮古島： 特に誘致はしていない。今は受身の状況
- 石垣市： インフラの確認が必要。
- 多良間： 行事で忙しい時におもてなしは難しい
- 渡嘉敷村： 宿泊施設等があるため受け入りには前向き

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

1. 18市町村対象離島へのヒアリング

③ ボランティアツーリズムというコンセプトに賛同する団体誘致の可能性はあるか

■ ボランティアツーリズムに賛同する団体誘致に関するまとめ

ボランティアツーリズムに関しては、各離島ともすでに離島内で行っていたり、団体誘致に関しても前向きに検討している。ただし、小さい離島などは、受け入れ体制の問題などもあがっている。

ボランティアツーリズムに賛同する団体誘致の可能性

粟国村： ビーチクリーンアップなど。

伊是名： ビーチクリーンやお祭りへの参加など含め可能性はあると思う。

伊平屋村： 年前、ムーンライトマラソンでの連携（のれんわけ）を実施。奥尻町との連携。毎年交流をしている。

南城市： 島をきれいにする意味も含めて積極的に行っていけたらいい。

入ってはいけない部分、島の人しか立ち入れない部分などもあるので、事前に案内・理解 していただくことが前提。

神行事の部分とそうではない部分を明確にして、出来る限り島外の人にも参加していただきたい。

うるま市： 清掃ボランティアであれば賛同できる。市で募集することも可能と考える。

現在、天願川では「天願川デー」を設けて、市民により清掃活動を実施している。

島の清掃活動で出たゴミ処理については、市で処理することも可能ではないか。

団体の規模が10名程度は問題ないが、30～40名規模になると、

船舶の臨時便が必要になる場合がある。その際には、船舶航路の手続きが必要となる。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

1. 18市町村対象離島へのヒアリング

③ ボランティアツーリズムというコンセプトに賛同する団体誘致の可能性はあるか

ボランティアツーリズムに賛同する団体誘致の可能性

- 久米島： 可能性はある。ただし、誘致対象をどこにするのか検討が必要。
これが課題と考える。
これまで琉球大学観光産業科学部との取り組みのなかで、漂着ゴミ回収活動を年に1回実施したいとの意見がある。
- 北大東村： 農作業の支援団体受入について積極的に受入れる状況にある。
2月8日に約20日間に受入を予定。
受入時期については、2月から3月の期間を中心に考えている。
- 南大東村： 時期を限定すれば受入の可能性はある。企業団体などの研修受入については、現在離島振興総合センターの改築を行っており、平成28年度末に完成予定なので、これらの施設を活用できればと考える。
受入時期については、閑散期（5-8月）が対象期間と考える。
- 宮古島： 大会に出る選手の皆さんが大会前に自主的にゴミ拾いとかはあるけど、その為に来る団体とかはない。
- 石垣市： 「海ラブネットワーク」海岸線の漂着物を毎月クリーンするグループ
多良間： 行事で忙しい時におもてなしは難しい。教育委員会との連携などもしていけば可能性も出て来るかもしれない。
- 渡嘉敷村： 渡嘉敷マラソンのボランティア93名も予定していた。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

1. 18市町村対象離島へのヒアリング

④ 受入についての課題とメリットはなにか

■ 受入についての課題とメリットに関するまとめ

各離島とも、受入に対する課題は多いが、受入に対するメリットについては、言及していない離島も見受けられる。

受入の際の課題で、多いものとしては、「宿泊施設」、「交通」、「渡航費が高い」、「受け入れ体制」といったコメントが多い結果となった。

受入についての課題とメリット

○粟国村

課題： 宿の問題（受入キャパに限りがある。工事関係者で泊まれないこともある）
交通の問題（冬場の欠航率の高さ、飛行機の運休）

メリット： 専門家による写真を通じたプロモーション
星、地層など粟国島でしか見られないものが多数ある。学校の野外勉強に最適。天体望遠鏡もある。

○伊是名

課題： グラウンドはあるが、プロを呼べるようなレベルではない。
船の欠航。

メリット： 島の人との交流ももてればよりよいと思う。
どちらかという団体での受入が多いので、慣れている。（特に教育旅行）
それ以外の団体にも活用していきたい。

○伊平屋村

課題： プロモーション不足。知らない人が多い
外国人受入

メリット： 団体での一括受入なので、個人の受入よりは効率的である

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

1. 18市町村対象離島へのヒアリング

④ 受入についての課題とメリットはなにか

受入についての課題とメリット

○南城市

課題： バス乗り入れについて（集落内は狭いため）→交流館にとめることで対応
ガイドの養成（案内できる人が限られている）
ガイドの質の部分について（歴史部分と体験部分、その両方）
受入の窓口がしっかりと決まっていない（今回のコースは地域雇用創造協議会が作成）

メリット：（ビーチクリーンなど）島がきれいになる。
久高島のことを知ってもらえる（ルールも伝統も含めて）

○本部町

課題： 団体受入の時期が長期休暇の時期に限られる（ホール施設はない）
団体受入のノウハウがないので、サポートが必要だと思う。
役場では離島支援のいろいろな支援策があるが、現状では受入が難しいとの意見である。

○うるま市

課題： 取りまとめをどこが担うか調整が必要。
メリット： 地域貢献になる。

○久米島

課題： ボランティアツーリズムを訴求する対象が不明。
学生を対象とした場合、学生の旅費負担が重い。
メリット： 島外の企業、団体、個人により美化活動は、島民への啓発にもなり、
更なる地域美化につながる。
課題は取りまとめをどこか担うか調子が必要。

○北大東村

課題： 長期滞在の場合、宿泊施設の確保
滞在中の作業員の食事準備担当者の確保
航空券代が高額なこと
メリット： 農繁期の労働力確保

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

1. 18市町村対象離島へのヒアリング

④ 受入についての課題とメリットはなにか

受入についての課題とメリット

○南大東村

課題：島内での移動手段

宿泊施設（収容数）の確保

メリット：閑散期に受入可能な人数の団体の受入が可能になれば、観光振興に繋がる。

○宮古島

課題：団体で来た際の宿泊施設が足りるか

団体客の日にちが重なるとバスが足りない。

クルーズ船がくるとタクシーが足りない。

○石垣市

課題：人数はそんなに受け入れられない

○多良間

課題：青年会も簡単に動かせない、組織として崩壊している。

まとまって共有できていないから立ち上がる事ができない。

人数はいるけど、受け皿となるリーダーがいない。

横の繋がりが薄い。役場の人が動くしかないとなると、次へのキッカケにならない。

メリット：今回の調査を基に事業化していく、商品として確立していけるといい

○渡嘉敷村

課題：役場はどこまで関わるのか。実施主体者（受け入れ側の運営者）を

誰にするか。現実的な実行プランを詰めていく必要がある。

商工会や受入側を含めて詰めて調整する必要がある。

商工会とは日程や受入キャパの問題も調整する必要がある。

メリット：地元の人との交流を盛り込み、魅力発見のツアーにしたい。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

2. 対象団体へのヒアリング

① 対象離島への訪問宿泊経験、過去実績

■ 対象離島への訪問宿泊経験に関するまとめ

10団体中、離島訪問宿泊経験があるのは、8団体。離島訪問の主な理由として、団体の活動や仕事での訪問が多い結果となった。以前は、社員旅行や新人研修で、離島を利用していた実績もあるが、最近では社員旅行や新人研修で利用することもなくなってきている。

■ 主な実績について

1. 企業

- ・社員旅行などでの離島訪問。商品造成など、仕事での離島訪問。
- ・2012～2013年に伊平屋にて、新人職員研修を実施。
- ・登録スタッフや社員が仕事で、訪問。
- ・20年前に福利厚生補助で、社員旅行を行っていた。
- ・ビジネスの機会としての離島訪問機会が多くある。

2. 大学

一昨年から、座間味村での島おこしを実施。学生へのアンケートを基に、環境税や特産品のCM、バドミントンの強化合宿などを計画。

3. 旅行会社

商品ツアーでの離島訪問を行っている。今年度は観光型の宮古、渡嘉敷などが3月までコースがある。5、6年前には渡名喜のコースを作った。

4. スポーツ団体

過去2～3年で沖縄県のスポーツツーリズム交流事業での訪問やファンとの交流機会を創る目的での訪問。2015年8月には、石垣市での高校生との練習試合を実施。

5. 日本ボーイスカウト沖縄県連盟

各団のキャンプ地として、離島を活用している。昨年は、与那原の団で、渡嘉敷でのサマーキャンプを実施。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

2. 対象団体へのヒアリング

② 離島交流を実施するにあたってのクリアすべき課題

■ 離島交流実施にあたり、クリアすべき課題まとめ

離島交流を実施するにあたって、クリアすべき課題として、多かった意見は、「離島へいく為のコスト」、「民宿に対する抵抗」、「天候悪化によるリスクヘッジ。島の受け入れ体制。」という意見が多くあがっていた。

■ クリアすべき課題コメント一覧

自然に手を加えてしまうのは、残念。	おもてなし感がない。ただ淡々とこなしているような感じも受ける。
島たび助成の実施時期の検討	地元の人と県外からの人がやっている民宿だと、おもてなし感に差がある。
料金が高い	かゆいところに手が届く感がない。
一度いったから、次は行かない。	女性受けしそうな宿が少ない感じがする。
同じプランだとささらない。	男性だけの旅行ではなく、必ず女性がついてくる。女性目線でのコースづくりも必要。
宿泊先が足りない。	施設、設備等で使われていないものが多かった。
日帰り、できる離島はお金落ちない。	離島での継続した需要というのは見えてこない。
民宿は、会うまでどんな人かどんな所かわからない。自由にできない。	離島へいくコストが高い。
沖縄の人は民泊には抵抗がある。	天候悪化による帰ってこれなくなった場合のリスクヘッジ
天候の悪化などで、帰れなくなった場合、島の受け入れ体制がないとパンクする。	サービスの基盤ができて、いかに離島住民に活用してもらえるように促進するのが課題。
同じコストをかけるのであれば、離島よりも県外へ行きたいというニーズの方が圧倒的に多い。	プランを見ると、沖縄本島でも、できるようなものしかない。沖縄本島にないような離島特有なものを入れてほしい。
離島へ夏場以外に行って何があるのか。	ある程度のレクリエーションがないと、3日間ぐらいはいいが、1週間は飽きてしまう。
船の欠航がネック	海のレジャーだと、沖縄本島よりも高いイメージがある。観光客向けの値段だしたら、本島の方は、わざわざ離島にいかない。
受入の宿があるのか不安	同じ3万円なら、南に行くより、九州や東京など、北に行ってしまう。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

2. 対象団体へのヒアリング

③ 離島訪問意向、条件

■ 離島訪問意向、条件に関するまとめ

全団体、離島訪問に対しては、前向きな姿勢であった。企業では「研修や福利厚生、ビジネス」、大学では「ゼミでの課題、研究活動」、旅行会社では「離島の商品プラン」、スポーツ団体であれば「交流試合や地元ファンや子供との交流」、ボーイスカウト連盟では「キャンプ」、など、各団体それぞれの特色にあった訪問意向があがった。

■ 各団体の離島訪問意向、条件

1. 企業

- ・本島の企業団体を離島に送り込みたい。ビジネスには興味がある。
 - ・優先順位としては、県外、県内。離島に送り込みたいのは3 - 4番手。
 - ・企業研修としてもっと活用できればと思う。
 - ・ピークを過ぎた職員への振り返りのプログラムとしても活用できたらと思う。
- あとひと踏ん張り、花を咲かそう、定年後のライフプランについて見つめなおすいい機会。
- ・フォロー研修、3年目で行うプログラムなどをおこないたいと思っている。
 - ・社員全員での社員旅行というのは難しいが、もし助成があるのであれば、新入社員や一部社員での研修などで利用してみたい。
 - ・離島の特産品を売る為にはどうしたらよいか、ビジネスとして、一緒に連携するのも面白い。
 - ・離島の方の採用も今後行って行きたい。今後は離島での会社説明会なども、もしそういった助成があるのであれば、やってみたい。
 - ・社員の福利厚生として、離島を活用するのもよいと思う。
 - ・南大東や座間味など、よく行っている。急にインフラが整っても、ノウハウを準備していないといけなないので、行く機会が増えている。
 - ・ICTを活用した街づくりの為に、「観光」、「健康福祉」、「防災」、「教育」から、快適・便利な生活や安心・安全な街づくりをめざしたサービスの提供の為に、離島訪問を行っている。
 - ・離島では不足している部分があり、やってあげたいが、できない現状もある。離島との仕事でのつながりがないと厳しい。
 - ・他の周りの企業が団体で離島で行くのは、一つは、社内研修やレクリエーションだと思う。
 - ・新入社員研修マナーをやろうとしている。もし、こういう助成金があるのであれば、使用して、社員研修をやってみたい。フォローアップ研修みたいな感じでやるのも可能。
 - ・今、お問い合わせでマナー研修が意外とある。そういったところで、非日常での異空間での研修をやってもよい。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

2. 対象団体へのヒアリング

③ 離島訪問意向、条件

■ 各団体の離島訪問意向、条件

2. 大学

- ・離島に強制的に若いうちにいけば、楽しかったということで、次もいくのではないか。
- ・座間味村でのバドミントンをぜひ実現したい。沖国のバドミントン部と中学校バドミントン部と総勢10名程度で、できればいいと思う。
- ・5年間で、離島をどうやってPRするのか、盛り上げるのか。学生たちに課題を与えて、久米島の情報発信を半年がかりでやるのかといったところを久米島が求めるのであればぜひやりたい。
- ・粟国や宮古島が研究したいのであれば、予算もあるので、やりたい。
- ・メディアとマーケティングを研究していて、離島と連携させるような研究、教育をこの機会にやってみたい。

3. 旅行会社

- ・本土、県内のマリン体験を本部でやっているが、それを伊平屋でやれば、マリン体験をやった後、1泊すると思うので、やった方がいい。
- ・伊江島や伊平屋やなど、修学旅行などで、先生方が楽だという理由で民泊が人気がある。子供を預けるのは心配だが、実績のある伊江島や伊平屋は安心して、子供を預けられる。
- ・通常の民泊で、男女分けて3名程度。申し込みの段階で、1組3名で出している。
- ・観光型のほうが、体験型より、集客しやすい。観光型の中に少しずつ体験型を取り入れていったほうが成功しやすい。

4. スポーツ団体

- ・ぜひ離島訪問したい。
- ・離島のファンや子供たちとの交流は、沖縄のプロチームの使命だし、大切にしたい。
- ・サッカーの競技人口増加や競技レベルの向上に貢献したい。
- ・実施時期を調整してもらえれば、島たび事業にも参加する意向

5. 日本ボーイスカウト沖縄県連盟

- ・離島を選ぶ基準として、管理されたしっかりとしたキャンプ場で、キャンプができるところ。安全に野営できることが基準。行くと決めたら、多少高くてもいい。
- ・ロケーションがいい。魚釣りができる。水が豊富。トイレがあった方がいい。
- ・体験プランの津堅島の人参収穫など、カブやビーバーが喜びそうで、やりたい。
- ・受け入れる側に求めることとして、キャンプ場までの移動。それが安くできるかどうか。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

2. 対象団体へのヒアリング

④ ボランティアツーリズム事業についての評価

■ ボランティアツーリズム事業についてのまとめ

離島でのボランティアを経験したことのある団体は2団体。離島でのボランティアに興味があるのは、全団体興味があり、今後機会があれば、やってみたいという前向きな声が多くあがった結果となった。

■ 各団体のボランティア実績やボランティアに対する考え

1. 企業

- ・ボランティアへのニーズ（援農など）。ボランティア精神のツアーニーズ。子供のために勉強させたいなどの親のニーズ。移住者などで知り合いを作りたい人のニーズ。
- ・ダイビング関係で、サンゴの植え付けなども対象。いいことをしたいこと欲求が前提、その先はいろいろな趣向によって分かれてくる。細かいニーズの細分化が必要。マスを動かすことは想像できない。ビーチクリーンのイメージがある。
- ・週末、社員のリフレッシュも兼ねて、普段の日常とは違う離島で、地元の人と触れ合いながら、農業の手伝いやビーチクリーンなど、ボランティアに従事するのによいと思う。
- ・週末などに、社員が離島に訪問し、地元のスーパーなどを調査、地元の人にヒアリングして、離島の不憫さをまとめて、それを元に離島でのフィールドマーケティングの展開に繋げても面白いと思う。

2. 大学

- ・ボランティアは一昔に比べ、学生の需要が上がっている。ただ離島のボランティアは聞いたことがない。
- ・本島の非行少年などを社会から切り離して、離島でボランティアをやることで、抜けられないところから強制的に話、再教育もよいかもしい。

3. 旅行会社

- ・離島のことを知るために、離島ボランティアなどで、ビジネスとの連携ができればよい。
- ・社員旅行や研修だと、民泊の方がよい。そこで農作物を手伝ったり、おじい、おばあをケアするボランティアなどであれば面白いのではないか。
- ・県内のビーチクリーンボランティアだとそこそこ集まるので、それを離島で、できないか。企業として、離島に貢献できているとPRできる。
- ・ボランティアの人たちが手伝いに来て、祭りなど手伝ってもらうと人不足が解決できてよい。
- ・理容専門学校の人をボランティアで連れて行って、化粧やパーマなどをさせるのも面白い。
- ・ボランティアで専門の方が、ペンキ塗れます、髪切れますという札を下げてやるのも、よいかもしい。

沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

2. 対象団体へのヒアリング

④ ボランティアツーリズム事業についての評価

■ 各団体のボランティア実績やボランティアに対する考え

4. スポーツ団体

これまで、多くの離島を訪問し、サッカースクールや地域ボランティアに取り組んできた。

5. 日本ボーイスカウト沖縄県連盟

地域の清掃活動や年末の募金活動を行っている。